

生涯学習施設の利用方法の見直しについて

1. 生涯学習施設の今後の展望※

この資料は説明会当日に使用した資料です。

目指す将来の生涯学習施設像

「学びの場+地域コミュニティによるまちづくり活動の場」

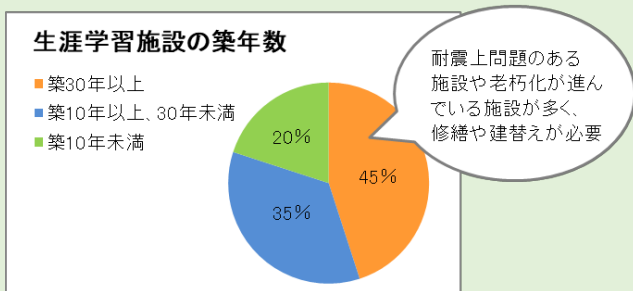
生涯学習施設の配置については、当面の間、現在の配置状況を維持する

- 静岡市では平成 29 年 9 月に策定した『生涯学習施設の配置適正化方針』において、地域コミュニティの活動の場の充実がまちづくり活動の活性化につながるという考えのもと、生涯学習施設の将来像を「学びの場+地域コミュニティによるまちづくり活動の場」としました。
- 市では人口の減少や、財政規模の縮小が予測される中、持続可能な都市経営の実現のため、公の施設の総床面積を 30 年間で 20%縮減（H24.3 末比）することを目標とし、施設の統廃合を進めています。しかしながら、生涯学習施設については、今後施設を「学びの場」に加え、「地域コミュニティによるまちづくり活動の場」としても活用していくため、建替えの際には施設規模の見直しはしつつも、当面の間、現在の配置状況を維持していくこととしました。

2. 生涯学習施設に係る問題

① 老朽化が進む施設

現在、市には 40 の生涯学習施設があり、その半数近くが、昭和 40 年代から 60 年代にかけて建設され、建築後 30 年以上が経過しています。



② 修繕費、建替え費用の増大

施設を安心安全、快適に利用していただくため、修繕や建て替えを行っていますが、それにはお金がかかります。

- 今後(*1)想定される修繕、改修、建替等に係る費用
約 27 億 9 千万円

施設に係る年間修繕費	約 8,000 万円 / 年平均
中規模改修に係る費用(*2)	約 5 万円 / m ² × 延べ床面積
大規模改修に係る費用(*3)	約 20 万円 / m ² × 延べ床面積
施設の建替えに係る費用	3 億～4 億 / 施設(※近年の実績)

*1 2019～2022の4年間。建物改修、建替えにかかる費用は『静岡市アセットマネジメントアクションプラン(H30.3版)』の想定事業費に基づく。
*2 目安として15年ごとに実施 *3 目安として30年ごとに実施

③ 運営費に占める使用料割合

修繕費以外にも、施設の運営には費用がかかります。運営費（事業に係る経費を除く）に占める使用料割合も課題となっています。

(A) 施設運営費 (維持管理経費+人件費) (千円)	(B) 使用料等収入 (千円)	運営費に占める 使用料割合 (B) / (A)
747, 223	47, 459	6%

なお、生涯学習センター（葵・駿河区 11 館）の施設運営費に占める使用料割合は 13%、生涯学習交流館（清水区 21 館、葵・駿河区 8 館）の同割合は 1% です。（H26 年度実績）

④ 施設間の利用方法の違い

現在、生涯学習センターと生涯学習交流館という 2 種類があります。

施設の種類によって申請開始時期等に違いがあり、同じ活動を行っていても、施設の種類によって利用の申請開始時期や使用料が異なっています。